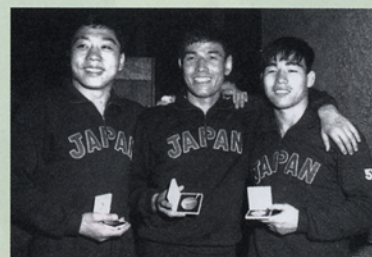


III 復興への希望

第16回メルボルン大会

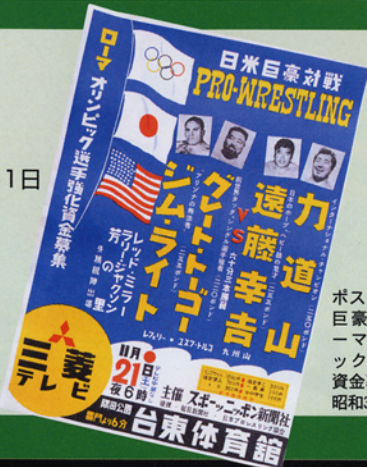
開催都市(国名) メルボルン(オーストラリア)
 <馬術のみストックホルム(スウェーデン)>
 開催日 昭和31年(1956)11月22日~12月8日
 <馬術6月10日~6月17日>
 競技数 17<1>
 種目数 145<6>
 参加国・地域 67<29>
 選手数(日本) 3155(117)<159(2)>
 日本メダル数(金・銀・銅) 4・10・5



レスリング、メダルを手に喜ぶ(左から)池田、笹原、笠原(読売新聞社提供)

第17回ローマ大会

開催都市(国名) ローマ(イタリア)
 開催日 昭和35年(1960)8月25日~9月11日
 競技数 18
 種目数 150
 参加国・地域 83
 選手数(日本) 5338(167)
 日本メダル数(金・銀・銅) 4・7・7



ポスター「日米巨豪対決/ローマオリンピック選手強化資金募集」昭和34年(1959)

第15回ヘルシンキ大会

開催都市(国名) ヘルシンキ(フィンランド)
 開催日 昭和27年(1952)7月19日~8月3日
 競技数 18
 種目数 149
 選手数(日本) 4955(72)
 日本メダル数(金・銀・銅) 1・6・2



レスリングの石井庄八が使用したシューズ(秩父宮記念スポーツ博物館蔵)

II 戦争が与えた影響

第14回ロンドン大会

開催都市(国名) ロンドン(イギリス)
 開催日 昭和23年(1948)7月29日~8月14日
 競技数 19
 種目数 136
 参加国・地域 59
 選手数(日本) 4104(不参加)

戦時下のスポーツと選手たち



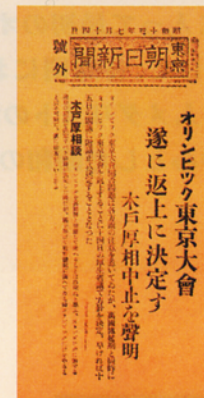
全日本水上選手権自由形400m決勝で世界新記録を出した古橋廣之進(読売新聞社提供)

第13回ロンドン大会

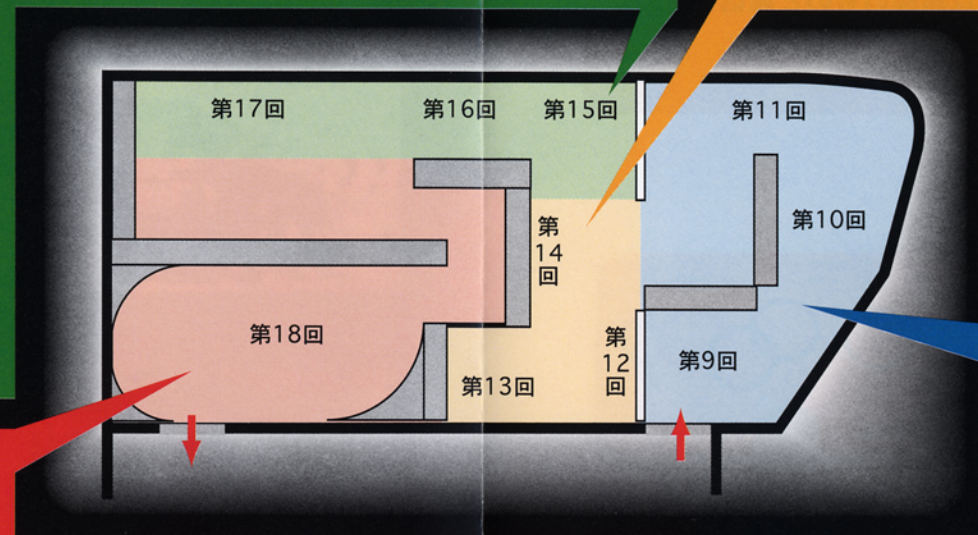
昭和19年(1944)開催予定だったが、第二次世界大戦勃発により中止

第12回東京大会

昭和13年(1938)7月16日大会返上された
 開催都市(国名) 東京(日本)
 開催予定日 昭和15年(1940)9月21日~10月6日



大会返上の号外(秩父宮記念スポーツ博物館蔵)

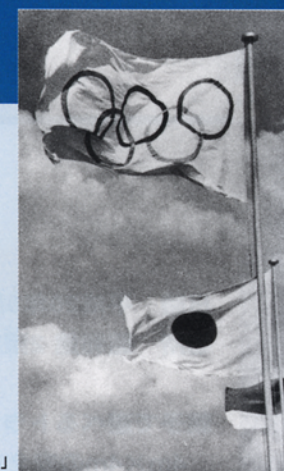


I 日本選手の躍進

第11回ベルリン大会

開催都市(国名) ベルリン(ドイツ)
 開催日 昭和11年(1936)8月1日~8月16日
 競技数 21
 種目数 129
 参加国・地域 49
 選手数(日本) 3963(179)
 日本メダル数(金・銀・銅) 6・4・10

ベルリンの次は「日本」



ベルリン大会に参加した選手の競技用具のトランク

第9回アムステルダム大会

開催都市(国名) アムステルダム(オランダ)
 開催日 昭和3年(1928)5月17日~8月12日
 競技数 16
 種目数 109
 参加国・地域 46
 選手数(日本) 2883(43)
 日本メダル数(金・銀・銅) 2・2・1



三段跳び優勝の織田幹雄(毎日新聞社提供)



織田幹雄が陸上三段跳びで優勝した時のメダル。日本初の金メダルだった(織田正雄蔵)

第10回ロサンゼルス大会

開催都市(国名) ロサンゼルス(アメリカ合衆国)
 開催日 昭和7年(1932)7月30日~8月14日
 競技数 16
 種目数 117
 参加国・地域 37
 選手数(日本) 1334(131)
 日本メダル数(金・銀・銅) 7・7・4



800mリレーで優勝した男子競泳チーム(読売新聞社提供)



IV 実現した東京オリンピック

オリンピックの実現に向けて



「東京でまた会う日まで」と表示されたローマ大会閉会式の電光掲示板昭和35年(1960)9月11日(毎日新聞社提供)

聖火リレーと開会式



東京オリンピック選手団・帽子

第18回東京大会

開催都市(国名) 東京(日本)
 開催日 昭和39年(1964)10月10日~10月24日
 競技数 20
 種目数 163
 参加国・地域 93
 選手数(日本) 5152(355)
 日本メダル数(金・銀・銅) 16・5・8



重量挙げフェザー級、三宅義信が金メダル(共同通信社提供)



マラソンで銅メダルを獲得した内谷幸吉(毎日新聞社提供)



絵はがき(オリンピック東京大会)



レコード「東京五輪音頭/東京五輪おどり」(三波春夫/テイチクレコード)

市川崑総監督による東京大会の公式記録映画「東京オリンピック」のパンフレット